

活動の記録

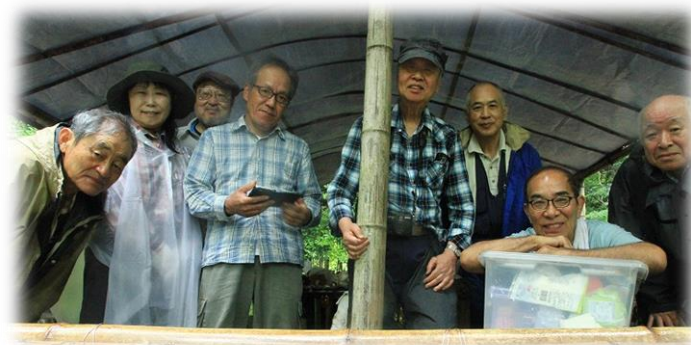
2018年6月10日（雨）定例活動日

参加会員 8名（秋元 新井通子 鶴沢 及川 坂本 松田 村野 山口）

当日は梅雨前線に南岸通過の台風から湿気が送り込まれて大雨になる予報が出ていました。最悪の予報が繰り返し放送されていたので、外出を控えた人も多かったと思います。その他、仕事からみや体調などの理由で不参加も多かったのですが、熱心な会員のお蔭で活動中止は免れました。結果的にはお昼まで時々小雨、昼食時に雨音が強くなった程度で、本降りにならず、温度が高くなかったため、雨合羽を着ても汗をかかずに済みました。



雨に煙る新緑の豊英島



集合写真は雨宿りテントで

雨に煙る新緑の山々、みずみずしいヤマボウシの花など雨ならではの風情も楽しめました。しかし、天気の悪化が心配なのでシカ調査、ツチアケビなどの植物観察、センサーカメラのメモリー交換、きのこ観察、島外農地周辺の草刈りなど、出来る事を手早く済ませて早々に切り上げました。危険木の片付け、ヒメコマツ植栽地と水辺の環境整備などは来月以降に持ち越しとしました（坂本）

○ニホンジカの調査

調査に必要な人数が辛うじて確保出来たので、各コースに振り分けましたが、用紙が無くて記録はとれず、最後に結果の報告を受ける形にしました。

当日の目撃、糞、新しい食痕などの情報は皆無でした。ただしギャップ更新地の保護柵内の草本に食害と思われる痕跡が見られたようです。新井さんの推測は網の隙間から潜り込んだノウサギ説です。

調査時間 10時10分～40分まで 各コースの担当は 1. 坂本 2. 村野 3. 鶴沢 4. 新井 5. 山口 6. 秋元 7. 松田 でした。（坂本）

○島外休耕農地の草刈り

今年から借用した島入口農地の土手の草刈を実施しました。

村野さんは手鎌でフェンス外の道路脇を刈る。中腰での作業で結構きつそうでした。

坂本さんと私は仮払い機で急斜面の土手の草刈りをしました。雨の中滑りに注意しながらの作業は足腰にこたえる。坂本さんは慣れたもので私の5倍以上の速さで刈るのには感心しました。午前中約1時間で中断し、解散後やり残しの部分を刈って仕上げて行くと坂本さんが一人残り作業されました。ご苦労様でした。（山口）

*島外休耕農地利用案

地主さんとは口約束ですが、島外の休耕農地が周辺の雑草刈りとの交換条件で利用可能の件は既にお知らせした通りです。

普通の野菜などを植えても、月に一回の活動日だけでは世話し切れませんので、手のかからない物を選ぶ必要があります。ウド、コゴミ（クサソテツ）ウルイ（オオバギボウシ）などの山菜系はどうでしょうか。これら3種は私の畑で栽培しているものばかりですから、株分けすれば只で植えられます。

宿根性ですから一度植えれば毎年収穫でき、年を追って大株になります。来春に植えたとして収穫は再来年の春になりますが、その時には自前の取れたて材料で天ぷら大会が出来ると思います。

それまで待てない人もいると思い、通常活動終了後に居残りです手の草刈りの残り分を片付けついでに枝豆の種を一畝蒔きました。品種は自家採種の小糸在来です。

雑草をどけて地面に木の棒で穴を開け、種を落とすだけの極めて原始的で粗放なやり方ですが、運良く育てば秋の公開行事ではお客様にも振舞えるかも知れません。（坂本）

〇ギャップ林の食害犯は？

道中、フロントガラスに早くも雨の気配。お昼まで何とかもってほしいと願いつつ雨具持参で入山した。シカ調査などを終えてギャップ林に入るとなんとなく違和感、茶色い地面の面積が広くてすっきりして草本類がほんの少ししかない。アキバギクやコウヤボウキ、サルトリイバラなど先端がないのが目につく。4月にはあれほどあったチゴクリも少なく、オケラは細いのが1本と根本で株立ちしたのが1本しか確認出来なかった。前回見てから約2か月のブランクがあるので、草丈の成長から推定してノウサギではないかなあ？周囲のネットから侵入したのかなあ？周囲のネットを見ると入れるほどの隙間があるし・・・坂本さんによるとノウサギはセンサーカメラに写っていて、島に出入りしていることは間違いなしとの事。急ぎ調査と対策をしていく必要があろう。

（5頁記事「〇ノウサギの食害」を参照）

昼食時、私一人、右の靴に大きなヒルが2匹も付いていた。この島でヒルの話が初めて聞かれたのは数か月前だったかも。

雨の中でも森は楽しい。（新井通子）



ネットの隙間から侵入？（秋元）



新井さんの靴にヤマビル(坂本)

〇ツチアケビ

・千年の森広場南

今年の株4株のうち健全に開花した株1株、花が2~3個ついて元気のない株1株、どす黒く変色し花の無いもの2株でした。

・ヒメコマツ保護柵内

今年の株3株のうち、健全な株はなく、3株とも花を2-3個つけた元気のないものでした。

・巨木林保護柵内 雨空の中、薄暗い保護柵内を一通り見回りましたが残念ながらツチアケビを見つけることはできませんでした。赤いテープ等のわかりやすい目印が必要です。（秋元）



ツチアケビの健全な開花株



ツチアケビの病変株

〇きのご観察

鹿の一斉調査を終えて、キノコのご観察を行いました。ここのところの暑さに期待したのですが、拍子抜けの小ささでした。

1) ミネジメジ (キシメジ科キシメジ属)

千年の森の代表選手の一つで、予約時間どおりの発生でした。野性味のある味がするらしいので、チキンラーメンに放り込みましたが、触感はあるものの、味の食感はありませんでした。

2) ウラベニガサ (ウラベニガサ科ウラベニガサ属)

これもチキンラーメンに入れましたが、味の食感がなく、調理法の失敗です



3) ムレオオイチョウタケ (キシメジ属オオイチョウタケ属)

根元が瓢箪型をしていませんが、ヒダの細かさや紙臭がありムレオオイチョウタケかと思われました。

ムレオオイチョウタケ

4) タマシロオニタケ小型 (テングタケ科テングタケ属)

通常は夏の大型キノコですが、これはずいぶん小型です。

5) ネナガノヒトヨタケ (ナヨタケ科ヒトヨタケ属)

あと2~3日で傘は溶け落ちるとおもわれます。

6) ホコリタケ老菌 (ハラタケ科ホコリタケ属)

ポンポンと叩くと、ほら胞子がほこりのように・・・と説明するのに最適な標本です。



ネナガノヒトヨタケ



ホコリタケ老菌



ミネジメジ



ウラベニガサ



タマシロオニタケ



ミミブサタケ

7) ミミブサタケ (ベニチャワンタケ科ミミブサタケ属)

ウサギの耳の様な子実体ですが、実は地下には塊状の菌糸から、まとまって生えるのです。めったに生えない珍菌ですから、おそらく千年の森の記録にも記載は無いとおもわれます。

このきのこを食べたら、すこぶる不味かったという記事を読んだことがあります。おそらく可食のミミタケ(キクラゲ)と勘違いしたのでしょう。未知のきのこを食べるときは、深みに入らず、浅瀬を歩きたいものです。(松田)

○トビの雛

先月の活動日に白い綿毛の雛を確認していたので、皆さんがその後の生長を気にしていました。巣を覗いた人からうつ伏せで羽を広げたまま動かないから死んでいるのではないかと、声が聞こえたので生きているとかの意見がありました。一応写真は撮りましたが暗くてはっきり写っていません。鳥の種類によっては外敵が接近した時に凍り付いたように動かなくなる場合があるので、今回もそれかも知れません。

その他の野鳥は時間が無くて調査できませんでした。（坂本）



孵化後約3週目のトビの雛

○センサーカメラの画像 5月の活動日は多忙でメモリーの交換ができませんでしたので、今回の画像は古いものだけです。尚、今月から電池とメモリーの交換は及川さんが担当します。ただし、ワンドライブへの画像アップは引き続き坂本が行います。（坂本）



ハクビシン 3月19日



ニホンザル 4月29日



アナグマ 4月30日



メモリー交換中の及川さん

○わくわくドキドキ体験

昨年と同様に6月の活動日は雨の中、まぶしいほどの緑を楽しみました。

わくわく1位：吊橋を渡って20mほどのところに斑入りのコウヤボウキが輝きを持って出迎えてくれました。

わくわく2位：落葉の上にプロペラのような白い花、見上げるとテイカカズラが咲き乱れていました。

わくわく3位：ヤマボウシの花があちこちで白く輝いていました。



斑入りコウヤボウキ



テイカカズラの白い花



ヤマボウシの花



キヨスミギボウシ



コナラの年輪沿いに白いきのこ



鮮やかなオレンジ色のニガイチゴ

ドキドキ1位：巨木林保護柵内の薄暗い林床に1株のキヨスミギボウシが、妖しく白く佇んでいました。

ドキドキ2位：切り倒したコナラの切り口の年輪に沿って青いカビ？と白いキノコが弧を描いていました。

ドキドキ3位：千年の森広場北側にニガイチゴが鮮やかなオレンジ色の実をつけていました。「苦いよ！」という声の中、食したところちょっとした苦みがアクセントになって美味しかったです。（秋元）

○ノウサギの食害

ギャップ更新林にはニホンジカではなくノウサギによる食害痕が散見されます。(秋元)



イノシシ上陸か？

千年の森に着いた頃には、しとしと雨になってきました。そんな中で、熱心な(物好きな)8人の参加となりこの日は、鹿の侵入一斉調査と、それぞれの分野の観察です。少ない人数でも“雨にも負けず、風にも負けず”を合言葉に観察をしましたが、成果がなかったのは、幸だったのか。

不幸なことに、これまで見かけなかった、イノシシが木の根を漁ったような痕跡が見つかりました。千年の森は、ダムの中の島、吊り橋

には扉があり、イノシシは合鍵を持っていないので、対岸から“いのかき”で泳いで来たらしいのです。こうなると、せっかく育てた、シイタケやヒラタケはおろか、ホテイチクのタケノコの食害が予想され、わたしはじめ、きのこ班は思案投首で居ます。(松田)



イノシシの痕跡？

お知らせ

○7月の定例活動日 7月16日(祝) 9時30分 清和自然休養村管理センター(直売所) 集合
光環境調査(夏季)、ヒメコマツ植栽地刈払い、水辺の環境整備、シイタケ本伏せ、植物、野鳥、昆虫、野生キノコ調査などを実施します。

○8月の定例活動日 8月19日(日) 9時30分 清和県民の森 木のふるさと館駐車場集合
夏の野生キノコ観察会(吹春講師) *研究用以外は持ち帰りません。

訃報

小又 哲さん(習志野市)が6月4日に亡くなられたとの知らせがありました。本会発足当時の会員の小又さんは京都大学山岳部の出身で、自然の捉え方や森づくり活動について一言を持った方でしたが、厳しいコメントを述べる一方でこやかな笑顔が印象的な方でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。(伊藤)

在りし日の小又さん 2006年10月29日

